

国立大学法人北海道教育大学における学生  
の意見を取り入れた授業・教育課程評価書

令和2年3月17日

# 目次

	ページ
I 点検評価について . . . . .	1
II 観点の状況	
観点・観点1 . . . . .	2
観点2 . . . . .	11
観点3 . . . . .	18
観点4 . . . . .	22
III 評価の公表 . . . . .	28

## I 点検評価について

本評価書は、「国立大学法人北海道教育大学における学生の意見を取り入れた授業・教育課程評価に関する規則」（平成 27 年規則 44 号）の規定に基づき、学生の意見を取り入れた授業・教育課程評価委員会（以下「委員会」という。）が点検評価実施要項を作成し、点検を行い、評価及び改善に関する意見をもって評価書（案）を作成し、学長が評価を決定したものである。

点検評価は、委員会が、観点の状況を自らシラバスを点検し点検シートを作成して確認し、必要に応じて関係部局のヒアリングを行い、「分析結果とその根拠理由」「評価」「改善に関する意見」としてまとめた。

今後、本評価を踏まえた改善策を企画・実施し、更なる授業・教育課程の改善及び教員の資質向上を図り、併せて取組の状況を学生に周知し説明責任を果たすとともに、本学の教育に対する学生の関心と理解を一層高めることによって、教育の質の向上を目指す。

## II 観点の状況

### 観点

教育課程編成基準に定めた課程・学科ごとに開設する教養科目がその目的と合致しているか

教員養成課程・国際地域学科・芸術・スポーツ文化学科に開設される教養科目については、以下に示す4つの観点の点検を踏まえると、教育課程編成・実施の方針（C P）を満たす内容・履修方法・成績評価が実施され、卒業認定・学位授与の方針（D P）や人材養成の目的が達成されるよう編成されていることから、おおむねその目的と合致している。

また、授業科目の到達目標の不足や同一名称科目間における不統一等について指摘を行っているが、これは現状のシラバスから読み取られたものである。教育課程の質を保証するものは、それを構成する個々の授業であり、その授業が保証する内容はシラバスに漏れなく適正に記載され、学習者に対して履行を保証しなければならない。その意味において改善に関する意見は、現状のシラバスの記載がもたらした教育の質保証に対する課題であり、教員個々の責任にとどめることなく組織的な教育の質保証の取組が強く求められる。

なお、釧路校では点検の過程において認められた教養科目の履修時期や体系性に係る課題が提起されている。このことについても、組織的な取組が強く求められる。

### 観点1 授業の到達目標の総和はC Pの資質・能力を満たしているか

#### 【教員養成課程】

#### 1 全体の状況

##### (1) 分析結果とその根拠理由

##### ① 【共通基礎科目】

教員養成課程の共通基礎科目において、札幌キャンパス、旭川キャンパス、釧路キャンパスのいずれのキャンパスにおいても当該区分の授業科目の到達目標は、当該区分と対応するC P 1-1～5に提示された資質・能力を満たしている。

##### ② 【基礎教養科目】

札幌キャンパス・旭川キャンパスの基礎教養科目において、当該区分の授業科目の到達目標は、当該区分と対応するCP2-1～2に提示された資質・能力を満たしている。釧路キャンパスにおいては、授業科目の選択によってはCP2-1～2に提示された資質・能力の一部を満たさない場合がある。

### ③【現代的教養科目】

札幌キャンパス・釧路キャンパスの現代的教養科目においては、当該区分の授業科目の到達目標は、授業科目の選択によっては当該区分と対応するCP3-1～2に提示された資質・能力の一部を満たさない場合がある。旭川キャンパスにおいては、授業科目の選択によっては当該区分の授業科目の到達目標はCP3-1～2に提示された資質・能力の全部又は一部を満たさない場合がある。

## (2) 評価

分析結果から、各教養科目区分において授業科目の到達目標の総和はおおむねCPを満たしている。しかしながら、授業科目の選択によってはそれらの到達目標の総和はCPに提示された資質・能力の全部又は一部を満たさない場合があり、観点を一部満たしていない。

## (3) 改善に関する意見

各教養科目の到達目標がCPに資するよう点検を行うとともに、他方で教育課程編成時における各授業科目の到達目標と対応するCPの点検を漏れなく実施する体制の整備とCPの達成を意識した履修指導が求められる。

## 2 各キャンパスの状況

点検シート「○CPと到達目標の関連確認票」の点検から以下の状況にある。

### (1) 札幌校

#### ① 分析結果とその根拠理由

##### i 【共通基礎科目】

ア 共通基礎科目には、20科目の授業科目（同一・複数開講の科目は1授業科目とする。以下同じ。）が開設され、その内12科目は同一・複数開講となっていて、総科目数は111科目である。

イ 各授業科目の到達目標は、共通基礎科目に対応するCP1-1～5のいずれかを満たしている（○）又はいずれかの一部を満たしている（△）。

ウ 同一・複数開講の各授業科目の到達目標とCP1-1～5の対応は統一されている。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、共通基礎科目に対応するCP1-1～5の全てを満たしていることが確認された。

## ii 【基礎教養科目】

ア 基礎教養科目には、16科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。

イ 各授業科目の到達目標は、基礎教養科目に対応するCP2-1～2の全て又はいずれかを満たしている（○）。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、基礎教養科目に対応するCP2-1～2の全てを満たしていることが確認された。

## iii 【現代的教養科目】

ア 現代的教養科目には、19科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。

イ 各授業科目の到達目標は、現代的教養科目に対応するCP3-1～2の全て又はいずれかを満たしている（○）又はいずれかの一部を満たしている（△）。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、授業科目の選択によっては、現代的教養科目に対応するCP3-1～2の一部を満たさないことが確認された。

## ② 評価

分析結果から、現代的教養科目において授業の到達目標の総和がCP3-1～2を満たさない場合があり、観点を一部満たしていない。

## ③ 改善に関する意見

教育課程編成時における各授業科目の到達目標と対応するCPの点検を漏れなく実施する体制の整備とCPの達成を意識した履修指導が求められる。

## (2) 旭川校

### ① 分析結果とその根拠理由

#### i 【共通基礎科目】

- ア 共通基礎科目には、12科目の授業科目が開設され、その内11科目は同一・複数開講となっていて、総科目数は89科目である。
- イ 各授業科目の到達目標は、共通基礎科目に対応するCP1-1～5のいずれかを満たしている（○）又はいずれかの一部を満たしている（△）。
- ウ 同一・複数開講の各授業科目の到達目標とCP1-1～5の対応は、ほぼ統一されている。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、共通基礎科目に対応するCP1-1～5の全てを満たしていることが確認された。

#### ii 【基礎教養科目】

- ア 基礎教養科目には、15科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。
- イ 各授業科目の到達目標は、基礎教養科目に対応するCP2-1～2の全て又はいずれかを満たしている（○）又はいずれかの一部を満たしている（△）。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、基礎教養科目に対応するCP2-1～2の全てを満たしていることが確認された。

#### iii 【現代的教養科目】

- ア 現代的教養科目には、32科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。
- イ 各授業科目の到達目標は、26科目が、現代的教養科目に対応するCP3-1～2の全て又はいずれかを満たしている（○）又はいずれかの一部を満たしている（△）、2科目が、CP3-1～2のいずれかの一部を満たしている（△）、4科目が、CP3-1～2を満たしていない（×）。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、授業科目の選択によっては、現代的教養科目に対応するCP3-1～2の全て又は一部を満たさないことが確認された。

## ② 評価

分析結果から、現代的教養科目において授業の到達目標の総和がC P 3-1～2を満たさない場合があり、観点を一部満たしていない。

## ③ 改善に関する意見

現状の現代的教養科目の到達目標の改定を行うとともに、教育課程編成時における各授業科目の到達目標と対応するC Pの点検を漏れなく実施する体制の整備とC Pの達成を意識した履修指導が求められる。

### (3) 釧路校

#### ① 分析結果とその根拠理由

##### i 【共通基礎科目】

ア 共通基礎科目には、24科目の授業科目（同一・複数開講の科目は1授業科目とする。以下同じ。）が開設され、その内10科目は同一・複数開講となっていて、総科目数は54科目である。

イ 各授業科目の到達目標は、共通基礎科目に対応するC P 1-1～5のいずれかを満たしている（○）。

ウ 同一・複数開講の各授業科目の到達目標とC P 1-1～5の対応はほぼ統一されている。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するC Pの総和を見れば、共通基礎科目に対応するC P 1-1～5の全てを満たしていることが確認された。

##### ii 【基礎教養科目】

ア 基礎教養科目には、13科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。

イ 各授業科目の到達目標は、11科目が、基礎教養科目に対応するC P 2-1～2のいずれかを満たしている（○）又はいずれかの一部を満たしている（△）、2科目が、C P 2-1～2を満たしていない。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するC Pの総和を見れば、授業科目の選択によっては、基礎教養科目に対応するC P 2-1～2の一部を満たしていないことが確認された。



### iii 【現代的教養科目】

ア 現代的教養科目には、18科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。

イ 各授業科目の到達目標は、17科目が、現代的教養科目に対応するCP3-1～2の全て又はいずれかを満たしている（○）、1科目がCP3-1～2を満たしていない。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、授業科目の選択によっては、現代的教養科目に対応するCP3-1～2の一部を満たしていないことが確認された。

### ② 評価

分析結果から、基礎教養科目及び現代的教養科目において授業の到達目標の総和がCP2-1～2、CP3-1～2を満たさない場合があり、観点を一部満たしていない。

### ③ 改善に関する意見

現状の基礎教養科目及び現代的教養科目の到達目標の改定を行うとともに、教育課程編成時における各授業科目の到達目標と対応するCPの点検を漏れなく実施する体制の整備とCPの達成を意識した履修指導が求められる。

## 【国際地域学科】

### 1 分析結果とその根拠理由

#### (1) 【共通基礎科目】

##### ① 〈地域協働専攻〉

i 共通基礎科目には、33科目の授業科目が開設され、その内25科目は同一・複数開講となっていて、総科目数は167科目である。

ii 各授業科目の到達目標は、共通基礎科目に対応するCP1-1～5のいずれかを満たしている（○）又はいずれかの一部を満たしている（△）。

iii 同一・複数開講の各授業科目の到達目標とCP1-1～5の対応は統一されている。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、共通基礎科目に対応するCP1-1～5の全

てを満たしていることが確認された。

② 〈地域教育専攻〉

- i 共通基礎科目には、31科目の授業科目が開設され、その内22科目は同一・複数開講となっていて、総科目数は157科目である。
- ii 各授業科目の到達目標は、共通基礎科目に対応するCP1-1～5のいずれかを満たしている（○）。
- iii 同一・複数開講の各授業科目の到達目標とCP1-1～5の対応は統一されている。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、共通基礎科目に対応するCP1-1～5の全てを満たしていることが確認された。

(2) 【基礎教養科目】

① 〈地域協働専攻・地域教育専攻〉

- i 基礎教養科目には、14科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。
- ii 各授業科目の到達目標は、基礎教養科目に対応するCP2-1～3の全て又はいずれかを満たしている（○）。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、基礎教養科目に対応するCP2-1～3の全てを満たしていることが確認された。

(3) 【現代地域教養科目】

① 〈地域協働専攻・地域教育専攻〉

- i 現代的教養科目には、13科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。
- ii 各科目の到達目標は、10科目が、現代的教養科目に対応するCP3-1～3のいずれかを満たしている（○）又はいずれかの一部を満たしている（△）、1科目が、CP3-1～3のいずれかの一部を満たしている（△）、2科目が、CP3-1～3のいずれも満たしていない（×）。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するCPの総和を見れば、授業科目の選択によっては、現代的教養

科目に対応するC P3-1～3の一部を満たさないことが確認された。

## 2 評価

分析結果から、現代的教養科目において授業の到達目標の総和がC P3-1～3を満たさない場合があり、観点の一部を満たしていない。

## 3 改善に関する意見

現状の現代的教養科目の到達目標の改定を行うとともに、教育課程編成時における各授業科目の到達目標と対応するC Pの点検を漏れなく実施する体制の整備とC Pの達成を意識した履修指導が求められる。

### 【芸術・スポーツ文化学科】

#### 1 分析結果とその根拠理由

##### (1) 【共通基礎科目】

###### ① 4 専攻共通

- i 共通基礎科目には、22科目の授業科目が開設され、その内9科目は同一・複数開講となっており、総科目数は63科目である。
- ii 各授業科目の到達目標は、20科目が、共通基礎科目に対応するC P1-1～2のいずれかを満たしている（○）、2科目が、C P1-1～2のいずれも満たしていない。
- iii 同一・複数開講の各授業科目の到達目標とC P1-1～2の対応はほぼ統一されている。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するC Pの総和を見れば、共通基礎科目に対応するC P1-1～2の全てを満たしていることが確認された。

##### (2) 【基礎教養科目】

###### ① 4 専攻共通

- i 基礎教養科目には、6科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。
- ii 各授業科目の到達目標は、4科目が、基礎教養科目に対応するC P2を満たしている（○）、2科目が、C P2を満たしていない（×）。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応するC Pの総和を見れば、基礎教養科目に対応するC P2を満たし

ていることが確認された。

### (3) 【現代的教養科目】

#### ① 4 専攻共通

- i 現代的教養科目には、7 科目の授業科目が開設されている。同一・複数開講となっている科目はない。
- ii 各授業科目の到達目標は、現代的教養科目に対応する C P 3 を満たしている (○)。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する C P の総和を見れば、現代的教養科目に対応する C P 3 を満たしていることが確認された。

## 2 評価

分析結果から、各教養科目区分において授業の到達目標の総和が C P を満たしており、観点を満たしている。

## 3 改善に関する意見

現状の基礎教養科目の到達目標の改定を行うとともに、教育課程編成時における各授業科目の到達目標と対応する C P の点検を漏れなく実施する体制の整備が求められる。

## 観点2 授業の到達目標は人材養成に関する目的に込えているか

### 【教員養成課程】

#### 1 全体の状況

##### (1) 分析結果とその根拠理由

各キャンパスとも共通基礎科目・基礎教養科目・現代的教養科目の各科目区分の全て又はいずれかに、人材養成に関する目的に係る資質・能力に対応する到達目標の授業科目がある。札幌キャンパス・旭川キャンパスは履修基準に沿った授業の履修により人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしている。釧路キャンパスは、授業科目の選択によって人材養成に関する目的に係る資質・能力の一部を満たさない場合がある。

##### (2) 評価

分析結果から、教養科目の履修によりおおむね人材養成に関する目的に係る資質・能力を満たしている。しかしながら、授業科目の選択によってはそれらの到達目標の総和は人材養成に関する目的に係る資質・能力の一部を満たさない場合があり、観点を一部満たしていない。

##### (3) 改善に関する意見

教養科目の性格上、全ての授業科目の到達目標に人材養成に関する目的に係る資質・能力を含めることはできていない現状にある。しかしながら、他の専門科目の到達目標では取り組めない人材養成に関する目的に係る資質・能力を、教養科目の到達目標に含めることで、教育課程全体としての人材養成に関する目的の達成を図ることが求められる。

#### 2 各キャンパスの状況

点検シート「○CPと到達目標の関連確認票」の点検から以下の状況にある。

##### (1) 札幌校

###### ① 分析結果とその根拠理由

- i 共通基礎科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしている(○)科目が1科目、必修科目としてあ

る。

- ii 基礎教養科目には，授業科目の到達目標が，人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）科目が1科目，選択科目としてある。
- iii 現代的教養科目には，授業科目の到達目標が，人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）科目が14科目，選択科目としてある。

以上のことから，履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば，人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

## ② 評価

分析結果から，授業の到達目標の総和が人材養成に関する目的を満たしており，観点を満たしている。

## ③ 改善に関する意見

なし。

## (2) 旭川校

### ① 分析結果とその根拠理由

- i 共通基礎科目には，各授業科目の到達目標が，人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしている（○）科目が1科目又はいずれかを満たしている（○）若しくはいずれかの一部を満たしている（△）科目が8科目，必修科目としてある。
- ii 基礎教養科目には，各授業科目の到達目標が，人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）若しくはいずれかの一部を満たしている（△）科目が4科目，選択科目としてある。
- iii 現代的教養科目には，各授業科目の到達目標が，人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）若しくはいずれかの一部を満たしている（△）科目が20科目，選択科目としてある。

以上のことから，履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば，人材

養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

② 評価

分析結果から、授業の到達目標の総和が人材養成に関する目的を満たしており、観点を満たしている。

③ 改善に関する意見

なし。

(3) 釧路校

① 分析結果とその根拠理由

i 共通基礎科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）科目が2科目（うち1科目はクラス分け科目のうちの1科目）、必修科目としてある。

ii 基礎教養科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれも満たしていない（×）。

iii 現代的教養科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）科目が6科目、選択科目としてある。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば、授業科目の選択によっては、現代的教養科目を中心に人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

② 評価

分析結果から、授業の到達目標の総和が人材養成に関する目的を満たさない場合があり、観点を一部満たしていない。

③ 改善に関する意見

教養科目の性格上、全ての授業科目の到達目標に人材養成に関する目的に係る資質・能力を含めることはできないとしても、他の専門科目の到達目標では取り組めない人材養成に関する目的に係る資質・能力を教養科目の到達目標に含めて教育課程全体で人材養成に関する目的の達成を図ることが求め

られる。

また、「人材養成に関する目的」のうち、「現代の学校現場での多様な課題」と「子供を深く理解」の2項目については、釧路校が力を入れている「フィールド研究」で相当程度満たすことが可能であるので、教養科目で積極的に満たす必然性はない。しかしもう一つの「北海道の地域特性」については、他の科目で満たすことは難しいと考えられるので、できればどの学生も1科目は履修ができるように履修基準などを工夫することが求められる。

## 【国際地域学科】

### 1 分析結果とその根拠理由

#### (1) 〈地域協働専攻〉

- ① 共通基礎科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）科目は4科目（うち3科目はクラス分け科目のうち1科目）、いずれかの一部を満たしているものは2科目（うち1科目はクラス分け科目のうちの1科目、1科目はクラス分け科目のうちの3科目）、必修・選択科目としてある。
- ② 基礎教養科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしている（○）科目は1科目、いずれかの一部を満たしている科目は6科目、選択科目としてある。
- ③ 現代地域教養科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）科目は2科目、選択科目としてある。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば、授業科目の選択によっては、人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

#### (2) 〈地域教育専攻〉

- ① 共通基礎科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかの一部を満たしている（△）科目は5科目、必修科目としてある。
- ② 基礎教養科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかを満たしている（○）科目は1科目、いずれかの一部を満たしている（△）科目は1科目、選択科目としてある。



- ③ 現代的教養科目には、授業科目の到達目標が、人材養成に関する目的に係る資質・能力のいずれかの一部を満たしている（△）科目は2科目、選択科目としてある。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば、授業科目の選択によっては、人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

## 2 評価

分析結果から、授業の到達目標の総和が人材養成に関する目的を満たさない場合があり、観点を一部満たしていない。

## 3 改善に関する意見

教養科目の性格上、全ての授業科目の到達目標に人材養成に関する目的に係る資質・能力を含めることはできないとしても、他の専門科目の到達目標では取り組めない人材養成に関する目的に係る資質・能力を教養科目の到達目標に含めて教育課程全体で人材養成に関する目的の達成を図ることが求められる。

### 【芸術・スポーツ文化学科】

#### 1 〈芸術スポーツ・ビジネス専攻〉

##### (1) 分析結果とその根拠理由

- ① 共通基礎科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は11科目あり、必修科目として4科目ある。
- ② 基礎教養科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は3科目、選択科目としてある。
- ③ 現代的教養科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は4科目、選択科目としてある。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば、人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

(2) 評価

分析結果から、授業の到達目標の総和が人材養成に関する目的を満たしており、観点を満たしている。

(3) 改善に関する意見

なし。

2 〈音楽文化専攻〉

(1) 分析結果とその根拠理由

- ① 共通基礎科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は18科目あり、必修科目として4科目ある。
- ② 基礎教養科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目はない。
- ③ 現代的教養科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は1科目、選択科目としてある。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば、人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

(2) 評価

分析結果から、授業の到達目標の総和が人材養成に関する目的を満たしており、観点を満たしている。

(3) 改善に関する意見

なし。

3 〈美術文化専攻〉

(1) 分析結果とその根拠理由

- ① 共通基礎科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は4科目あり、必修科目として4科目ある。
- ② 基礎教養科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は2科目ある。
- ③ 現代的教養科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応

した科目はない。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば、人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

(2) 評価

分析結果から、授業の到達目標の総和が人材養成に関する目的を満たしており、観点を満たしている。

(3) 改善に関する意見

なし。

4 〈スポーツ文化専攻〉

(1) 分析結果とその根拠理由

- ① 共通基礎科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は22科目あり、必修科目として4科目ある。
- ② 基礎教養科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は4科目ある。
- ③ 現代的教養科目の各授業科目の到達目標に、人材養成に関する目的に対応した科目は全科目（7科目）である。

以上のことから、履修基準に沿って単位修得した場合の授業科目の到達目標と対応する人材養成に関する目的に係る資質・能力の総和を見れば、人材養成に関する目的に係る資質・能力の全てを満たしていることが確認された。

(2) 評価

分析結果から、授業の到達目標の総和が人材養成に関する目的を満たしており、観点を満たしている。

(3) 改善に関する意見

なし。

### 観点3 複数開講授業科目の到達目標は統一されているか

#### 【教員養成課程】

#### 1 全体の状況

##### (1) 分析結果とその根拠理由

複数開講授業科目の到達目標では、「アカデミックスキル」や「情報機器の操作」において、各専攻・分野ごとにその特徴を反映しており到達目標の相違がある。また、体育系科目・外国語系科目において、担当者ごとに到達目標の相違がある。

##### (2) 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

##### (3) 改善に関する意見

同一名称・複数開講科目については各キャンパス・専攻・分野での特徴を踏まえつつ、指摘のあった科目について到達目標の統一を図ることが求められる。

#### 2 各キャンパスの状況

点検シート「○同一・複数開講の授業科目の到達目標と成績評価基準の状況確認票」の点検から以下の状況にある。

##### (1) 札幌校

###### ① 分析結果とその根拠理由

- i 共通基礎科目の12科目が同一・複数開講されている。
- ii 同一・複数開講科目の到達目標の全てが統一されている科目は5科目、統一されている部分がある科目は6科目、それ以外は「情報機器の操作」1科目である。
- iii 「情報機器の操作」の到達目標は、学生の所属に応じた分野ごとに記載されている。

以上のことから、「情報機器の操作」について到達目標の統一が図られていないことが確認された。

## ② 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

## ③ 改善に関する意見

「情報機器の操作」について、共通事項とする部分と、分野・教科ごとの専門性や受講生の実態に留意した部分を設けた上で、到達目標の適切な統一を図ることが求められる。

## (2) 旭川校

### ① 分析結果とその根拠理由

- i 共通基礎科目の 11 科目が同一・複数開講されている。
- ii 同一・複数開講科目の到達目標の全てが統一されている科目は 5 科目、全ての科目で統一されている部分がある科目は無く、それ以外は 6 科目である。
- iii 「情報機器の操作」「アカデミックスキル」の到達目標は、学生の所属に応じた分野ごとの記載であり、「外国語(英語)Ⅱ」「外国語(英語)Ⅳ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」の到達目標は、教員ごとの記載となっている。

以上のことから、「情報機器の操作」「アカデミックスキル」「外国語(英語)Ⅱ」「外国語(英語)Ⅳ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」について、到達目標の統一が図れていないことが確認された。

## ② 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

## ③ 改善に関する意見

「情報機器の操作」「アカデミックスキル」について、共通事項とする部分と、分野ごとの専門性や受講生の実態に留意した部分を設けた上で、到達目標の統一を図ること、並びに「外国語(英語)Ⅱ」「外国語(英語)Ⅳ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」について、担当教員間で到達目標の統一を図ることが求められる。

### (3) 釧路校

#### ① 分析結果とその根拠理由

- i 共通基礎科目の 10 科目が同一・複数開講されている。
- ii 同一・複数開講科目の到達目標の全てが統一されている科目は 2 科目，統一されている部分がある科目は 2 科目，それ以外 6 科目である。

以上のことから、「体育Ⅱ」「情報機器の操作」「外国語（英語）Ⅲ」「外国語（英語）Ⅳ」「外国語コミュニケーション（英語）Ⅰ」「外国語コミュニケーション（英語）Ⅱ」について到達目標の統一が図れていないことが確認された。

#### ② 評価

分析結果から，観点を一部満たしていない。

#### ③ 改善に関する意見

「体育Ⅱ」「情報機器の操作」「外国語（英語）Ⅲ」「外国語（英語）Ⅳ」「外国語コミュニケーション（英語）Ⅰ」「外国語コミュニケーション（英語）Ⅱ」について，共通事項とする部分と，分野ごとの専門性や受講生の実態に留意した部分を設けた上で，到達目標の統一を図ることが求められる。

### **【国際地域学科】**

#### 1 分析結果とその根拠理由

- (1) 共通基礎科目の 25 科目が同一・複数開講されている。
- (2) 同一・複数開講科目の到達目標の全てが統一されている科目は 9 科目，統一されている部分がある科目は 4 科目，それ以外は 12 科目である。
- (3) 「体育Ⅱ」及び外国語系科目の到達目標は，統一が図られていない。

以上のことから、「体育Ⅱ」及び外国語系科目について到達目標の統一が図られていないことが確認された。

#### 2 評価

分析結果から，観点を一部満たしていない。

#### 3 改善に関する意見

到達目標の統一が図られていないのは，特に「英語Ⅰ・Ⅱ」と「外国語コ

コミュニケーション（英語）Ⅱ」である。旧カリキュラムのシラバスをそのまま使用している担当教員がいることに起因する。外国語科目を統括する外国語教育運営委員会では、すでに到達目標を統一して表記するよう担当教員に求めているということである。このことも踏まえ、「体育Ⅱ」及び外国語系科目について到達目標の統一を図ることが求められる。

### 【芸術・スポーツ文化学科】

#### 1 分析結果とその根拠理由

- (1) 共通基礎科目の9科目が同一・複数開講されている。
- (2) 同一・複数開講科目の到達目標の全てが統一されている科目は3科目、統一されている部分がある科目は無く、それ以外は6科目である。
- (3) 「情報機器の操作」「アカデミックスキル」の到達目標は、学生の所属に応じた分野ごとの記載であり、「外国語(英語)Ⅰ」「外国語(英語)Ⅱ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」の到達目標は、担当教員ごとに異なった記載がなされている。

以上のことから、6科目について到達目標の統一が図れていないことが確認された。

#### 2 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

#### 3 改善に関する意見

「情報機器の操作」「アカデミックスキル」について、共通事項とする部分と、分野ごとの専門性や受講生の実態に留意した部分を設けた上で、到達目標の統一を図ること、並びに「外国語(英語)Ⅰ」「外国語(英語)Ⅱ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」について、担当教員間で到達目標の統一を図ることが求められる。

#### 観点4 複数開講授業科目の成績評価の方法・基準は統一されているか

##### 【教員養成課程】

##### 1 全体の状況

###### (1) 分析結果とその根拠理由

複数開講授業科目の到達目標では、「アカデミックスキル」「情報機器の操作」において、各専攻・分野ごとにその特徴を反映しており到達目標の相違や成績評価の方法・基準の相違がある。また、体育系科目・外国語系科目において、担当者ごとに成績評価の方法・基準の相違がある。

###### (2) 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

###### (3) 改善に関する意見

同一名称・複数開講科目については各キャンパス・専攻・分野での特徴を踏まえつつ、指摘のあった科目について成績評価の方法・基準の統一を図ることが求められる。

##### 2 各キャンパスの状況

点検シート「○同一・複数開講の授業科目の到達目標と成績評価基準の状況確認票」の点検から以下の状況にある。

###### (1) 札幌校

###### ① 分析結果とその根拠理由

- i 共通基礎科目の12科目が同一・複数開講されていた。
- ii 同一・複数開講科目の成績評価の方法・基準の全てが統一されている科目は6科目、統一されている部分がある科目は5科目、それ以外は「情報機器の操作」1科目である。
- iii 到達目標の統一された授業科目の成績評価の方法・基準は統一されている。

以上のことから、「情報機器の操作」について到達目標の統一が図られていない状況で、成績評価の方法・基準の統一が図られていないことが確認され



た。

## ② 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

## ③ 改善に関する意見

「情報機器の操作」について、「北海道教育大学の成績の評価方法及び履修登録単位数の上限並びに修学指導等に関する取扱要項」の第3の4には、「学生に選択の余地がないクラス指定等を行う同一の授業科目については、当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない」とあることを踏まえ、共通事項とする部分と、分野・教科ごとの専門性や受講生の実態に留意した部分で目標が構成されていることに留意し、成績評価基準の適切な統一を図ることが求められる。

## (2) 旭川校

### ① 分析結果とその根拠理由

- i 共通基礎科目の11科目が同一・複数開講されている。
- ii 同一・複数開講科目の成績評価の方法・基準の全てが統一されている科目は1科目、統一されている部分がある科目は4科目、それ以外は6科目である。
- iii 到達目標の統一された授業科目の成績評価の方法・基準は、統一されている。
- iv 「情報機器の操作」「アカデミックスキル」の成績評価の方法・基準は、学生の所属に応じた分野ごとの記載であり、「外国語(英語)Ⅱ」「外国語(英語)Ⅳ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」の成績評価の方法及び基準は、担当教員ごとに異なった記載がなされている。

以上のことから、6科目について成績評価の方法・基準の統一が図られていない状況であり、成績評価の方法・基準の統一が図られていないことが確認された。

## ② 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

### ③ 改善に関する意見

「情報機器の操作」「アカデミックスキル」について、「北海道教育大学の成績の評価方法及び履修登録単位数の上限並びに修学指導等に関する取扱要項」の第3の4には、「学生に選択の余地がないクラス指定等を行う同一の授業科目については、当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない」とあることを踏まえ、分野・教科ごとの専門性や受講生の実態に留意し、到達目標の統一を図りつつ成績評価の方法・基準の統一を図ることが求められる。

また、「外国語(英語)Ⅱ」「外国語(英語)Ⅳ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」について、担当教員間で成績評価の方法・基準の統一を図ることが求められる。

## (3) 釧路校

### ① 分析結果とその根拠理由

- i 共通基礎科目の10科目が同一・複数開講されていた。
- ii 同一・複数開講科目の成績評価の方法・基準の全てが統一されている科目は4科目、統一されている部分がある科目は4科目、それ以外は「体育Ⅰ・Ⅱ」の2科目である。
- iii 到達目標の統一された授業科目の成績評価の方法・基準はほぼ統一されている。

以上のことから、「体育Ⅰ・Ⅱ」について到達目標の統一が図られていない状況で、成績評価の方法・基準の統一が図られていないことが確認された。

### ② 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

### ③ 改善に関する意見

「体育Ⅰ・Ⅱ」について、「北海道教育大学の成績の評価方法及び履修登録単位数の上限並びに修学指導等に関する取扱要項」の第3の4には、「学生に選択の余地がないクラス指定等を行う同一の授業科目については、当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない」とあることを踏まえ、到達目標の統一を図りつつ成績評価の方法・基準の統一を図ることが求められる。

#### ④ その他の指摘

この度の観点に基づく釧路校における点検の過程において、以下の取り組みべき課題が明らかとなった。

i 「社会科学入門」は、一のシラバスの下で開講されているものの、実施は学生の各配属分野に任されている。学生の受講実態からは、明らかに内容をはじめ到達目標、成績評価の方法・基準において統一性が全くなく、CPの到達実態が不明である。改めて到達目標、成績評価の方法・基準の統一が求められる。

ii 教養科目の履修が、必ずしも学生の責めによらない理由であるにもかかわらず、一部の学生で4年生まで履修し続けなければならないという実態が明らかになった。時間割上、釧路校では2年生から履修可能になっているが、科目個別の履修制限（人数制限）などで履修ができない場合、翌年度の履修となるが、3年次は時間割上教養科目が履修できない状況にあり、4年生で履修せざるを得ない結果となっている。

このことは、釧路校の教養科目の履修年次を1・2年次としている履修基準とのそごが一部生じていることを示している。

したがって、担当教員には履修上の仕組みを考慮した上で、履修制限をすることが望まれる。

また、この背景には教室配当による受講人数への影響がある。特に同時間に行われている道内配信授業で使用できる教室が限られており、別の大人数の基礎教養科目に必要な教室配当ができなくなっているという実態も明らかとなった。この点は釧路校だけで解決可能な課題ではなく、最も重要な当該所属キャンパス学生の履修が不利にならないよう、全学的な配慮が求められる。

#### 【国際地域学科】

##### 1 分析結果とその根拠理由

- (1) 共通基礎科目の25科目が同一・複数開講されている。
- (2) 同一・複数開講科目の成績評価基準の全てが統一されている科目は6科目、統一されている部分がある科目は5科目、それ以外は14科目である。
- (3) 成績評価基準の統一が図られていないのは、「情報機器の操作（地域環境）」・外国語系科目である。

以上のことから、「情報機器の操作（地域環境）」及び外国語系科目について成績評価基準の統一が図れていないことが確認された。

## 2 評価

分析結果から、観点を一部満たしていない。

## 3 改善に関する意見

「英語Ⅰ・Ⅱ」の成績評価では、TOEIC等民間試験の結果を成績評価の一部としている授業がある。その民間試験の結果を評価の一部として使用する場合、民間試験の結果のみを評価する場合、授業内で行った試験やレポートの結果と総合的に評価する場合、民間試験の結果は評価しない場合など、担当教員ごとに異なっている。「北海道教育大学の成績の評価方法及び履修登録単位数の上限並びに修学指導等に関する取扱要項」の第3の4には、「学生に選択の余地がないクラス指定等を行う同一の授業科目については、当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない」とあることを踏まえれば、学生の実態に留意しつつも、学生が不利益を被らないよう、「情報機器の操作（地域環境）」及び外国語系科目について到達目標の統一を図りつつ成績評価基準の統一を図ることが求められる。

### 【芸術・スポーツ文化学科】

#### 1 分析結果とその根拠理由

- (1) 共通基礎科目の9科目が同一・複数開講されている。
- (2) 同一・複数開講科目の成績評価の方法・基準の全てが統一されている科目は3科目、統一された部分がある科目はなく、それ以外は6科目である。
- (3) 到達目標の統一された授業科目の成績評価の方法・基準は、統一されている。
- (4) 「情報機器の操作」「アカデミックスキル」の成績評価の方法・基準は、学生の所属に応じた分野ごとの記載であり、「外国語(英語)Ⅰ」「外国語(英語)Ⅱ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」の成績評価の方法及び基準は、担当教員ごとに異なった記載がなされている。

以上のことから、6科目について成績評価の方法・基準の統一が図れていない状況であり、成績評価の方法・基準の統一が図れていないことが確認された。

## 2 評価

分析結果から，観点を一部満たしていない。

## 3 改善に関する意見

「情報機器の操作」「アカデミックスキル」について、「北海道教育大学の成績の評価方法及び履修登録単位数の上限並びに修学指導等に関する取扱要項」の第3の4には、「学生に選択の余地がないクラス指定等を行う同一の授業科目については，当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない」とあることを踏まえ，分野ごとの専門性や受講生の実態に留意しつつ，到達目標の統一を図りつつ成績評価の方法・基準の統一を図ることが求められる。

また、「外国語(英語)Ⅰ」「外国語(英語)Ⅱ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅰ」「外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ」について，担当教員間で成績評価の方法・基準の統一を図ることが求められる。

### Ⅲ 評価の公表

本評価書は、本学ホームページで学生及び教職員に公表する。

(添付資料)

- ・点検シート
- ・国立大学法人北海道教育大学における学生の意見を取り入れた授業・教育課程評価に関する規則
- ・学生の意見を取り入れた授業・教育課程評価委員会による点検及び評価実施要項